

●検査・検診の意味

項目		意味	
胸部検診		胸部を撮影した写真により、結核・肺がん・肺炎など肺と気管支の状態を医師が判定しています。	
喀痰検査		顕微鏡で痰の中の細胞を観察し、がん細胞が含まれているかどうかを判定しています。	
胃部検診		バリウムを飲んで胃部を撮影した写真により、胃かいよう・胃がん・胃炎などを医師が判定しています。	
大腸検診		人間の血液だけに反応する便潜血反応により、便に血液が混じっていないかを判定しています。	
体格	BMI(体格指数)	医学的に最も病気のリスクが少ない「BMI=22」を「適正体重」としています。	
	腹囲	おへそ周りの大きさは、内臓脂肪がどの程度蓄積しているのかの目安となり、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の判定の指標となります。	
脂質	中性脂肪	皮下脂肪の主成分です。糖質やアルコールの摂りすぎで増加しやすく、動脈硬化の原因になります。食事時間や食事内容によって数値が高くなる場合があります。	
	HDLコレステロール	HDL(善玉)コレステロールは、血管壁にたまった余分なコレステロールを回収して肝臓に戻し、動脈硬化を予防します。	
	LDLコレステロール	LDL(悪玉)コレステロールは、全身の細胞にコレステロールを運びます。増えすぎると血管壁に沈着し、動脈硬化を進めます。	
	総コレステロール	コレステロールは、体の細胞を作るのに必要な成分です。多すぎると動脈硬化の原因となります。甲状腺機能低下により上昇する場合があります。肝臓病や栄養障害などで低くなります。	
血圧	血圧	最高(収縮期)血圧は心臓が収縮して血液が全身に送り出された時の圧力、最低(拡張期)血圧は心臓が拡張して血液が心臓に戻る時の圧力です。 高血圧の状態が続くと動脈硬化を招き、心筋梗塞や脳卒中の原因となります。	
糖尿病	尿糖	尿中に含まれるブドウ糖です。陽性では糖尿病や腎性糖尿などが疑われます。	
	血糖	血液中に含まれるブドウ糖の量です。高値では糖尿病が疑われます。食後は血糖値が上昇します。	
	HbA1c	過去1~2か月間の血糖値の平均値を示しています。 採血直前の食事に影響されないのが糖尿病の指標になります。	
尿酸	血清尿酸	血液中の尿酸の量を示しています。高値では痛風や動脈硬化の原因となります。	
心電図	心電図	心臓の拍動に伴う電気的な活動の変化を波形にしたものです。不整脈や心筋梗塞などを調べます。	
眼底	眼底	眼底の血管を直接観察することで、全身の血管の状態を調べる検査です。 動脈硬化・高血圧・糖尿病など全身疾患による血管の変化を各分類の進行度(0~4)で表しています。 (注)眼底検査の結果、出血を認める場合、「検査についての連絡事項」の欄に記載がありますのでご確認ください。	
腎臓	尿蛋白	血液中の蛋白が尿に出てきたものです。陽性では腎炎やネフローゼなどの腎臓疾患が疑われます。	
	尿潜血	尿中に混じる血液です。陽性では腎臓・尿管・膀胱・尿道・前立腺などの疾患が疑われます。	
	尿沈渣	赤血球・白血球・上皮細胞・円柱の項目を調べています。 異常値では、尿管結石・尿路腫瘍・腎炎・膠原病・尿路感染症などが疑われます。	
	尿素窒素	体の老廃物の一つで、腎臓から尿に排出されます。 高値では腎臓疾患が疑われます。脱水などでも軽度上昇します。	
	血清クレアチニン	体の老廃物の一つで、腎臓から尿に排出されます。高値では腎臓疾患が疑われます。	
	eGFR濾過量	腎臓がどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを表します。低値では腎機能の低下が疑われます。 (注)血清クレアチニン値と年齢、性別から計算式によって算出される値です。	
貧血	血色素量	血色素には酸素を全身に運ぶ役割があります。低値では貧血、高値では多血症が疑われます。	
	ヘマトクリット値	血液中に占める赤血球の割合を表しています。低値では貧血、高値では多血症が疑われます。	
	赤血球数	血液中の赤血球数を表します。低値では貧血、高値では多血症が疑われます。	
	白血球数	体内に侵入した細菌・ウイルス・異物などから体を守る免疫の働きを担う血球です。 高値では感染症・血液疾患等が疑われます。	
	血小板数	血液が固まるときに重要な役割をする血球です。低値では血液疾患や肝臓疾患が疑われます。	
	白血球分類	好中球	低値では敗血症・結核・肺炎などが疑われます。高値では扁桃炎・肺炎・胃腸炎などが疑われます。
		リンパ球	低値では悪性リンパ腫・白血病などが疑われます。 高値では梅毒・結核・おたふく風邪・パセドウ病などが疑われます。
		単球	高値では水痘症・麻疹などが疑われます。
		好酸球	低値では敗血症・結核・肺炎などが疑われます。高値では扁桃炎・肺炎・胃腸炎などが疑われます。
		好塩基球	高値では慢性白血病・多血症・潰瘍性大腸炎などが疑われます。
	MCV	MCVは赤血球の体積を表し、高値ではビタミンB12欠乏性貧血、葉酸欠乏性貧血、過剰飲酒が疑われます。	
MCH	MCHの低値では鉄欠乏性貧血、慢性炎症に伴う貧血が疑われます。		
MCHC	MCHCは赤血球に含まれる血色素量、MCHCは赤血球体積に対する血色素量の割合を表します。		

項目		意味	
肝臓	AST(GOT)	肝臓・心臓・骨格筋などに多く含まれる酵素です。高値はこれらの臓器の疾患が疑われます。	
	ALT(GPT)	肝臓に含まれる酵素です。高値は脂肪肝・肝炎・肝硬変などの肝臓疾患が疑われます。	
	γ-GT(γ-GTP)	肝臓の解毒作用に関連する酵素で特に飲酒に反応します。 高値は脂肪肝や飲酒・薬剤による肝障害・胆道の疾患が疑われます。	
	ALP	肝臓・腎臓・骨などに分布する酵素です。高値は肝臓・胆道疾患が疑われます。 (注)令和3年度からALPの測定法がJSCC法からIFCC法に変わり、基準値を変更しています。	
	総蛋白	高値は脱水による血液濃縮・肝硬変・慢性肝炎などが疑われます。 低値は急性肝炎・栄養摂取不良・急性腎炎などが疑われます。	
	アルブミン	アルブミンは、肝臓で合成され、血液中に最も多い蛋白です。 低値は栄養不足や肝臓・腎臓疾患が疑われます。	
	LDH	高値は急性肝炎・慢性肝炎・心筋梗塞・心筋炎・腎梗塞などが疑われます。 また、過激な運動などでも高くなる場合があります。	
	総ビリルビン	高値は黄疸・急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変・肺梗塞・甲状腺機能低下などが疑われます。	
	尿ウロビリノーゲン	胆汁中のビリルビンが腸内細菌により分解されたもので、大部分は便として排出されますが、一部は尿中に排出されます。ウロビリノーゲンは健康な人でもわずかに尿中に排出されるので、(±)が正常となります。 陽性の場合は肝臓病・溶血性貧血が疑われます。	
	LAP	様々な臓器や胆汁中に存在している酵素です。肝臓や胆道に障害がある時に上昇します。 成長期・妊娠期には高くなる場合もあります。	
	A/G比	血清蛋白中のアルブミン(A)とグロブリン(G)の比で、低値では肝疾患や感染症・膠原病等が疑われます。	
膵臓	アミラーゼ	高値は急性肝炎・膵臓がん・腹膜炎・腸閉塞などが疑われます。 低値は肝硬変・重度の糖尿病などが疑われます。	
視聴覚	視力	近視の有無を調べます。	
	聴力	難聴の有無を調べます。	
肝炎ウイルス検診		血液検査で、C型肝炎ウイルス、B型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。 (注)HCV抗体検査が1.0~99.9の方にHCV-RNA検査を実施しています。	
前立腺検診		血液中のPSA(前立腺特異抗原)を検査し、前立腺がんなど前立腺疾患の可能性を調べます。	
胃の健康度チェック(ABC検診)		血液検査で、胃がんのリスク(かかりやすさ)を調べる検査です。胃の萎縮度を調べるペプシノゲン検査とピロリ菌の有無を調べるヘリコバクターピロリ抗体検査の結果を合わせて3つのタイプ(ABC)に分類します。 ピロリ菌の除菌については、医療機関にご相談ください。 (注)バリウム検査・内視鏡検査の代わりとなる検査ではありません。	
骨粗しょう症検診		骨量は加齢とともに減少します。踵骨(足のかかと)に超音波をあてて骨の強さ(ステフネス)を測定し、骨粗しょう症を調べます。	
腹部超音波検診		腹部に超音波をあて、肝臓・胆のう・腎臓・脾臓など腹腔内の臓器から返ってくるエコー(反射波)を画像として映し出し、病変を調べます。	
肺機能検査	%肺活量	年齢・性別・身長から算出された予測肺活量に対して、あなたの肺活量が何%であるかを調べます。 低値は間質性肺炎や肺線維症などが疑われます。	
	1秒率	最大に息を吸い込んでから一気に吐き出すとき、最初の1秒間に何%の息を吐き出せるかを調べます。 低値は肺気腫や慢性気管支炎などが疑われます。	
腫瘍マーカー検査	セット1	AFP	主に肝臓がんで上昇します。肝硬変・肝炎・胃がん・膵臓がん・大腸がんなどでも高くなる場合があります。 また、妊娠期に高くなる場合もあります。
		CEA	大腸がんをはじめ消化器系のがんや膵臓がん、肺がんで上昇します。肝硬変・肝炎・腎不全などでも高くなる場合があります。また、加齢や喫煙で高くなる場合もあります。
		CYFRA(シフラ)	肺がん(扁平上皮がんや腺がん)で上昇します。乳がん、卵巣がんなどでも高くなる場合があります。
	セット2	CA19-9	卵巣がん・大腸がん・膵臓がん・胆のうがんで上昇します。 子宮内膜症・子宮筋腫・胃がん・胆道がんなどでも高くなる場合があります。
		CA125	卵巣がんで上昇します。乳がん・肺がん・肝臓がんなどでも高くなる場合があります。 また、月経期や妊娠期に高くなる場合もあります。
CA15-3	主に乳がんで上昇します。子宮内膜症・肝炎などでも高くなる場合があります。		
甲状腺検査	TSH(甲状腺刺激ホルモン)	脳(下垂体前葉)から分泌されるホルモンで、甲状腺に働きかけて甲状腺ホルモンの分泌に関与します。 分泌量が多ければ、甲状腺機能低下症が疑われ、少なければ甲状腺機能亢進症が疑われます。	
	FT4(遊離サイロキシン)	甲状腺から分泌されるホルモンで、体の新陳代謝に関与します。分泌量が多ければ、甲状腺機能亢進症が疑われ、少なければ甲状腺機能低下症が疑われます。	
新型コロナウイルス抗体検査		新型コロナウイルスワクチン接種による獲得抗体(中和抗体)を調べます。新型コロナウイルスワクチン最終接種後、14日以上経過している場合は、ワクチン接種により免疫が獲得できたかの推測ができます。	
心不全マーカー検査(NT-proBNP)		心臓に負担がかかると、体は負担に反応してBNPというホルモンを分泌し、同時にNT-proBNPが作られます。この数値から「心臓への負担の大きさ」を推測します。	